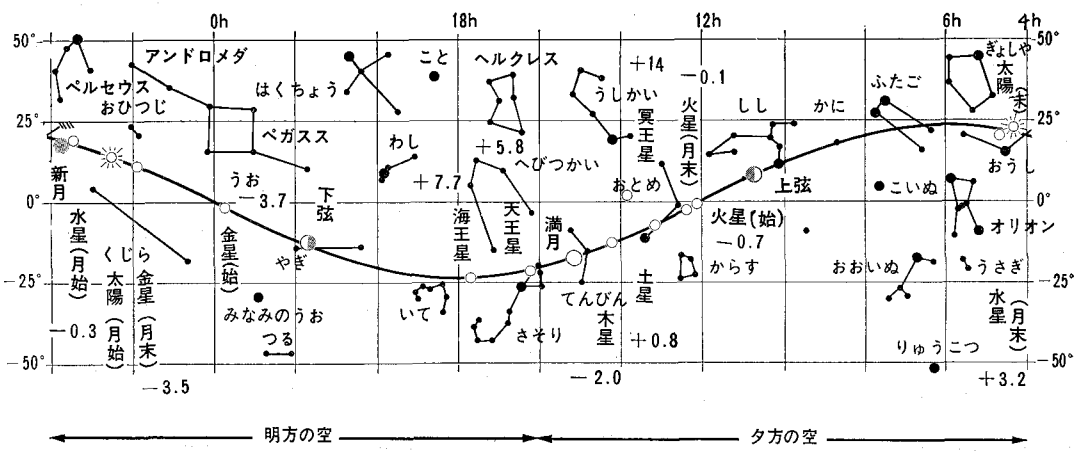
想作天文学〔V〕

南北天文学戦争

惑星テラに，人間という生物がいた．人間は南北両半球に，それぞれ同じ程度の文明を創り上げていった．やがて大航海時代がきて，半球相互の文化交流が始まった．そのとき受けたカルチャー・ショックは，言語や肌の色の違いなどによって起るものとは，比較を絶した人間の深層心理に根ざしたものだった．暖かい太陽を向いて暮した洞穴生活，夜空の星ぼしの動き，日時計の影の回る向きなどによって決ってしまった，それぞれの半球人の右と左は，時計の針の回る向きや数字の書き順まで反対にしてしまっていた．これらは，両半球人にとって決して馴れることのできない，鏡像の反世界であった．何千年もかかって築き上げた，天文学の座標系，地球回転の向き，経緯度の符号などは，天文学の教科書で両論並記して済まされない，両半球天文学界の譲れぬ基本定義だった．たとえ学問のために妥協したとしても，一般人にとっては，ルトカルメ世界地図の上下をどちらの半球にとるか，時計の針の回る向きを変えることなどは，もはや学者にまかせておけない．政治の問題になった．水半球圏は，陸地も人口も国も少ない地帯であったが，生物発生の源である水に富み，直立人のルーツは水圏に属するアフリカ南部にあるという歴史的事実によって，陸半球圏よりも優れた文化をもっていた．水半球圏天文学の成果によって，暦・星表・位置天文学の定義など，天文学の基本のすべてを書き換えること，世界地図は水半球圏を上にして飾ることが決定的になったとき，かねて左ハンドル車や，ボタン・ダイヤルが左利き向きになっている電気製品の集中輸出によって，大幅な輸入超過に不満を高めていた大陸半球人は，ついに水半球圏最北端の真珠島に奇襲をかけた．圧倒的な人海戦術によって，たちまちマヤ，ナスカ，イースターなどの高度文化地帯は，巨石の廃墟になってしまった．××40年12月8日以前，水半球圏人はナスカの砂絵によって，テラ外文明との交信に成功していた．優しい異星人は，水半球人が自分たちと同じ左巻き生物であることから，生き残った水半球人たちを，テラ外世界に脱出させる計画を提案した．異星人は何隻も航宙船を作り，水半球人を送り出してやった．脱出の方法と発射場を隠すため，異星人はすべての根跡と目撃者を消してしまった．

航宙船の材料発掘と航宙船中継地に天王星を使ったため，天王星は自転軸を 98° 傾け，また故障船は海王星その他の惑星のまわりに置き去りにされて，今に逆行衛星の謎を残した．力学教科書の左座標系表示，オイラー角や東経や方位角の測る向きの違うもの，極運動座標の Y 軸が極運動の回る向きと反対方向をプラスにとっていることなどは，隠れ水半球人の子孫の仕業ではないかと考えられている．　　($ZYXW$)

◇ 5 月 の 天 文 暦 ◇

日	時	記	事
6	5	立　夏	(太陽黄経 45°)
8	10	**望**	
9	9	水　星	東方最大離角
12	0	月	最遠
13	14	火　星	留
16	14	**下　弦**	
21	18	小　満	(太陽黄経 60°)
21	19	水　星	留
23	14	**朔**	
24	12	月	最近
24	12	天王星	衝
30	5	**上　弦**	

◇5月の日月惑星運行図◇